

# 官報號外

昭和十五年三月二十日

## ○第七十五回衆議院議事速記録第二十九號

昭和十五年三月十九日(火曜日)

午後一時三十四分開議

議事日程 第二十八號

昭和十五年三月十九日

午後一時開議

質問

一 英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船

客ヲ拉致シタル事件ニ關スル質問

(清瀬一郎君提出)

二 北海道廳長官ノ白米卸賣價格指

定ニ關スル質問(北勝太郎君提出)

三 官紀振肅ニ關スル質問(會和義

式君提出)

第一 昭和十五年度一般會計歲出ノ財

源ニ充ツル爲公債追加發行ニ關スル

法律案(政府提出)

第二 支那事變ニ關スル一時賜金トシ

テ交付スル爲公債發行ニ關スル法律

案(政府提出)

第三 外國爲替管理法中改正法律案

(政府提出、貴族院送付)

第四 神宮關係特別都市計畫法案(政

府提出、貴族院送付)

第五 都市計畫法中改正法律案(政

府提出、貴族院送付)

第六 國民體力管理法案(政府提出、貴

族院送付)

第七 市町村義務教育費國庫負擔法改

正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 現役小學校教員俸給費國庫負擔  
法中改正法律案(政府提出)

第九 職業紹介法中改正法律案(政府

提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)

○議長(小山松壽君) 諸般ノ報告ヲ致サセ  
マス (書記官朗讀)

一 政府ヨリ受領シタル答辯書左ノ如シ

清瀬一郎君提出英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨

獨人船客ヲ拉致シタル事件ニ關スル質問

=對スル答辯書

會和義式君提出官紀振肅ニ關スル質問ニ

對スル答辯書

英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉

致シタル事件ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十五年一月二十二日

提出者 清瀬 一郎

英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉

致シタル事件ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十五年一月二十二日

提出者 清瀬 一郎

英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉

致シタル事件ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

昭和十五年一月二十二日

提出者 清瀬 一郎

英國軍艦カ淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉

致シタル事件ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

「敵國軍ニ編入セラレタル一切ノ人員  
ニシテ中立商船内ニ在ル者ハ該船舶ヲ  
拿捕スルコトヲ得サル場合ト雖モ之ヲ  
俘虜ト爲スコトヲ得」ト在リ然レトモ  
獨逸及我カ國ノ如キ微兵制ヲ布ケル國  
ニ於テハ豫後備ノ軍籍ニ在ル者ト雖未  
タ召集ヲ受ケサル者ハ軍ニ編入セラレ  
タル者ト爲スヘキニ非サルコトハ勿論  
ナリ又英國大使館側ノ言明トシテ商船  
士官及乗組員ハ之ヲ俘虜ト爲シ得ル如  
ク陳述シタリト傳ヘラルモ海戰ニ於  
ケル捕獲權行使ノ制限ニ關スル條約(一  
九〇七年)ニ於テモ捕獲シタル商船内  
ニ於ケル船長及職員ヲ俘虜ト爲スノ規  
則アレトモ中立船内ニ在ルトキハ會テ  
船長又ハ船員ノ經歷アル者ト雖伴虜ト  
爲スコトヲ得スト考フ政府ハ英國軍艦  
ノ處置ヲ適法ナリト考フルヤ  
二 コレヨリ先本月十三日我カ海軍省係  
官ハ在京英國大使館附武官ニ對シ現ニ  
軍籍ニ在ル場合以外ハ之ヲ拉致セサル  
ヤウ申出ヲ行ヒ越エテ十五日ニハ重光  
駐英大使ヨリ直接英國政府ニ對シ同様  
趣旨ノ申出ヲ爲シタルカ如シ然ルニ英  
國側ハ今日ニ至ル迄右交渉ニ對シ何等  
ノ回答ヲ爲サス今回ノ處置ニ出テタル  
モノノ如シスノ如キハ國際禮讓ニ反シ  
我カ國ニ對シ非友誼的行爲ナリト考ヘ  
サルヤ政府ノ所見如何

昭和十五年三月十九日

内閣總理大臣 米内 光政

衆議院議長小山松壽殿

衆議院議員清瀬一郎君提出英國軍艦カ淺  
間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉致シタル事件ニ  
關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候  
(別紙)

衆議院議員清瀬一郎君提出英國軍艦カ  
淺間丸ヨリ獨逸人船客ヲ拉致シタル事  
件ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一、帝國政府ハ今次英國軍艦ノ行動ヲ國  
際法上適法ナラスト思考ス

英國政府ハ公海ニ於テ平和航海ニ從事  
シ居ル中立船舶ヨリ拉致シ得ル敵國人  
ノ範圍ニ付テ規定シ居ル「ロンドン」宣  
言第四十七條ニ獨得ノ解釋ヲ加ヘ且  
「ロンドン」宣言ハ調印國ニ依リ批准セ  
ラレ居ラス從テ何等拘束力ナキモノナ  
リトシ而シテ平和的航海ニ從事スル中  
立船舶ヨリ敵國人ヲ拉致スル慣行ハ國  
際法上確立セラレタル原則ナリト主張  
シ居レリ併シナカラ帝國政府ノ見解ニ  
依レハ「ロンドン」宣言第四十七條ハ英  
國側見解ノ如ク解スヘキモノニ非サル  
コトハ當時ノ關係書類ニ依ルモ明瞭ニ  
シテ又「ロンドン」宣言ハ批准セラレサ  
リシト雖モ同宣言カ海戰ニ關スル種々  
ノ主義ノ合理的ナル調整及妥協ヲ組成  
スルモノナリト認メラレ多數ノ國ニ於  
テ其ノ國內法ヲ以テ之ニ遵依シ居ル事  
實ニ顧ミ國際法上ノ準則タルヘキモノ  
ナリ更ニ若シ英國側主張ノ如ク同宣言  
ヲ全然無効ナルモノトセハ寧ロ公海ニ  
於テ平和的航海ニ從事スル中立船舶ヨ  
リ敵國人ヲ拉致シ得ストスル一般原則  
ニ從フヲ要スルモノナリ

帝國政府ハ斯カル理由ヨリシテ英國軍  
艦今次ノ行動ハ適法ナラスト思考ス  
ルモノナリ

二、英國政府ハ交戦國人抑留ニ關スル帝

國政府ノ見解ヲ承知シ居ルニモ拘ラス  
之ヲ無視シ且帝國領土至近ノ距離ニ於

テ今次ノ如キ行動ヲ執レルハ非友誼的  
行爲ナリト思考ス

三、英國軍艦ノ帝國近海ニ行動セル主目  
的ハ本邦領域内ニ遁入シ居ル獨國船舶

ノ脱出ニ備へ居ルモノト認メラレ之カ

爲疑ハシキ船舶ヲ尋問臨檢スルハ交戦

國軍艦トシテ一般ニ認メラル權利ナ

ルモ帝國領域ニ甚シク接近シテ帝國船

舶ノ行動ヲ阻碍スルカ如キハ禮讓ニ反

スルモノト思考ス仍テ政府ハ右ノ如キ

場合ニ於テハ其ノ都度注意ヲ喚起シ居

レリ

四、本件ニ關シ政府ノ執リタル處置ハ既

ニ二月一日及二月六日本大臣ヨリ帝國

議會ニ報告シタリ

右及答辯候也

昭和十五年三月十九日 外務大臣 有田 八郎

提出者 曾和 義式

官紀振肅ニ關スル質問主意書

右成規ニ據り提出候也

昭和十五年三月十四日

官紀振肅ニ關スル質問主意書

本議會ニ提出セラレタル會計検査院ノ昭

和十三年度歳入歳出決算検査報告ニ依レ

ハ同年度ニ於ケル豫算又ハ法律勅令ニ違

背シタル事項ハ殆ド全省ニ亘リ總て四十

八件金額ニ於テ三千五百八十二萬餘圓ノ

巨額ニ上リ外ニ國有財產ノ管理其ノ宜シキ

ヲ得サルモノ一件アリ而シテ之ニ對スル當

局ノ答辯ハ大體ニ於テ其ノ不當不法ナル

コトヲ認メ又然ラサル旨ヲ釋明セルモノ  
モ多クハ之ヲ認ムルコトヲ得サル迄ニ理

由薄弱ナルカ如キ如何ニ官紀ノ弛緩セル  
カヲ窺フニ足ルヘクスノ如キハ單ニ同年

度ノミナラス年々繰返サレツツアリ而モ

此ノ檢出セラレタルモノハ不當不法行爲

ノ全部ニハ非スシテ他ハ概々既ニ何カノ

機會ニ於テ上司等ニ發見セラレテ穩便ニ

解決シタルモノアリ或ハ賠償等ノ責ヲ果ホ

スシテ誠首免官サレ何人カカ之カ辻々ヲ

合セテ漸ク檢察ノ目ヲ免レタルモノアリ

是レ今日官吏ノ間ニ滅私奉公ノ至情殆ト

缺如シ却テ已一個ノ弊達ヲノミ希ヒ其ノ

及ハサルヲ知ルニ至リテハ姑息偷安ニ流

レテ其ノ職ヲ曠ウシ甚シキハ其ノ地位職

掌ヲ利シ機ヲ見テハ奇貨居クヘントシテ

私腹ヲ肥シ國家公共ヲ害毒セムトスルノ

徒良吏ノ間ニ介在セルニ依ラヌムハ非ス

今ヤ時局ニ伴ヒ國家ノ財政頓ニ膨脹シ事

業設施愈複雜多岐トナリ從テ出納件數竝

金額モ數年前ノ比ニアラス彼等不良ノ徒ノ

惡事ヲ爲サムトスル好機到レルモノト謂

フヘシ寔ニ寒心ニ堪ヘサルナリ今ニシテ

厲聲一番戒飭ヲ爲シ之ヲ取締ルノ責ヲ擧

ケスムハ遂ニ悔ニトモ及ハサルヘシ

一、政府ハ斯ル惡風ノ相當深刻ニ一部

吏僚間ニ浸透セルヲ認ムルヤ

二、吏僚間ノ自由主義、功利主義、立身

出世主義ノ弊風芟除ノ爲如何ナル方策

三、分限令ノ運用宜シキヲ得ル爲ノ如何

ナル用意アリヤ

四、官吏身分保障令撤廢ヲ斷行スル意志

横領、瀆職、收賄等)ヲ根絶スルニ如

何ナル具體的方法ヲ執ラムトスルカ

衆議院議員會和義式君提出官紀振肅ニ關 スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候		
衆議院議員會和義式君提出官紀振肅ニ關 スル質問ニ對シ別紙答辯書	別紙	衆議院議員會和義式君提出官紀振肅ニ關 スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候
政府ハ會計検査院ノ報告ニ鑑ミ今後一層 執務ノ監督ニ意ヲ用ヒ官吏ノ指導訓練ニ付 付憾ナキヲ期シ度キ考ナリ、尙官吏制	別紙	政府ハ會計検査院ノ報告ニ鑑ミ今後一層 執務ノ監督ニ意ヲ用ヒ官吏ノ指導訓練ニ付 付憾ナキヲ期シ度キ考ナリ、尙官吏制
度ニ付テハ慎重考究ノ上善處セントス 右及答辯候也	別紙	度ニ付テハ慎重考究ノ上善處セントス 右及答辯候也
昭和十五年三月十九日	昭和十五年三月十九日	昭和十五年三月十九日
内閣總理大臣 米内 光政	内閣總理大臣 米内 光政	内閣總理大臣 米内 光政
大藏大臣 横内 幸雄	大藏大臣 横内 幸雄	大藏大臣 横内 幸雄
樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル建 議案	樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル建 議案	樺太ニ衆議院議員選舉法施行ニ關スル建 議案
提出者 石坂 豊一君	提出者 石坂 豊一君	提出者 石坂 豊一君
坂東幸太郎君	坂東幸太郎君	坂東幸太郎君
服部 英明君	服部 英明君	服部 英明君
内藤 正剛君	内藤 正剛君	内藤 正剛君
本田彌市郎君	西村金三郎君	西村金三郎君
川崎 克君	小山倉之助君	小山倉之助君
提出者 内藤 正剛君	提出者 内藤 正剛君	提出者 内藤 正剛君
修正案 佐竹 晴記君	修正案 佐竹 晴記君	修正案 佐竹 晴記君
提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君
北勝太郎君	北勝太郎君	北勝太郎君
道家齊一郎君	道家齊一郎君	道家齊一郎君
提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君
北勝太郎君	北勝太郎君	北勝太郎君
道家齊一郎君	道家齊一郎君	道家齊一郎君
提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君	提出者 松永 義雄君
北勝太郎君	北勝太郎君	北勝太郎君
道家齊一郎君	道家齊一郎君	道家齊一郎君
提出者 佐竹 晴記君	提出者 佐竹 晴記君	提出者 佐竹 晴記君
(以上三月十七日提出)	(以上三月十七日提出)	(以上三月十七日提出)
一去十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常 任委員左ノ如シ	一去十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常 任委員左ノ如シ	一去十七日議長ニ於テ辭任ヲ許可シタル常 任委員左ノ如シ
第三部選出豫算委員 松尾 孝之君	第三部選出豫算委員 松尾 孝之君	第三部選出豫算委員 松尾 孝之君
第九部選出豫算委員 小田 榮君	第九部選出豫算委員 小田 榮君	第九部選出豫算委員 小田 榮君
一去十七日特別委員理事補闕選舉ノ結果左 ノ如シ	一去十七日特別委員理事補闕選舉ノ結果左 ノ如シ	一去十七日特別委員理事補闕選舉ノ結果左 ノ如シ

所得稅法改正法律案(政府提出)ニ對スル  
修正案

提出者 藤本 捏助君 北勝太郎君

法人稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 佐竹 晴記君

營業稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

物品稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

遊興飲食稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

通行稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

入場稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 佐竹 晴記君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 道家齊一郎君

地方稅法案(政府提出)ニ對スル修正案  
提出者 松永 義雄君 北勝太郎君

昭和十二年法律第九十號中改正法律案  
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員 理事伊藤 五郎君 (理事土屋寛君去  
十五日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事中田 儀直君 (理事森幸太郎君  
去十五日委員辭任ニ付其ノ補  
闕)

一去十七日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如  
シ  
鑑業法中改正法律案(政府提出)外一件委  
員 辞任小柳 牧衛君 補闕川崎末五郎君  
昭和十二年法律第九十號中改正法律案  
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員 辞任須永 好君 補闕野溝 勝君  
辭任岡野 龍一君 補闕長野 綱良君  
辭任今成留之助君 補闕松尾 四郎君  
昭和十五年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ  
ル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)  
外五件委員

一昨十八日常任委員理事補闕選舉ノ結果左  
ノ如シ  
豫算委員

理事 板谷 順助君 (委員増永元也君  
昨十八日理事辭任ニ付其ノ補  
闕)

理事 西尾 末廣君 (委員塚本重藏君  
昨十八日理事辭任ニ付其ノ補  
闕)

一昨十八日常任委員補闕選舉ノ結果左ノ如  
シ  
第三部選出

豫算委員 山元龜次郎君 (小田榮君補  
闕)

第九部選出  
豫算委員 安藤 正純君 (松尾孝之君  
補闕)

一昨十八日特別委員理事補闕選舉ノ結果左  
ノ如シ  
昭和十二年法律第九十號中改正法律案  
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員 辞任中田 儀直君 補闕淺井 茂猪君  
辭任山本 条吉君 補闕堀内 良平君  
日本肥料株式會社法案(政府提出)委員  
日肥

一昨十八日貴族院ニ於テ本院ノ送付ニ係ル  
左ノ政府提出案ヲ可決シタル旨同院ヨリ  
通牒ヲ受領セリ

(第二號)昭和十四年度歳入歳出總豫算追  
加案

一昨十八日常任委員理事補闕選舉ノ結果左  
ノ如シ  
豫算委員

○議長(小山松壽君) 是ヨリ會議ヲ開キマ  
ス、本日ノ日程ニ掲ゲマシタ質問一及ビ三  
ハ、何レモ政府ヨリ答辯書ヲ受領致シマシ  
タ、仍テ日程ヨリ之ヲ省キマス、尙ホ質問  
二ハ、提出者ノ申出ニ依リ之ヲ延期致シマ  
ス、清瀬一郎君ヨリ質問ノ答辯ニ對シ意見  
陳述ノ申出ガアリマス、此ノ際之ヲ許シマ  
シ

質問ノ答辯ニ對スル清瀬一郎君ノ意見  
陳述  
(清瀬一郎君登壇)

○清瀬一郎君 所謂淺間丸事件ニ關シ豫テ  
ノ如シ  
昭和十二年法律第九十號中改正法律案  
(米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員 一昨十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如  
シ  
昨十八日委員辭任ニ付其ノ補  
闕)

委員 (米穀ノ應急措置ニ關スル件)(政府提出)

委員 一昨十八日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如  
シ  
昨十八日委員辭任ニ付其ノ補  
闕)

会ニ御發言ノ權利ヲ持ツテ居ラルノデア  
リマスカラ、私ノ申スコトガ間違デアレバ  
御是正ヲ願ヒタイ、又積極的ニ國民ノ疑惑  
ヲ解クノ御親切ガアルナラバ、私ノ至ラヌ  
所ニ付テ補充アランコトヲ豫メ希望致シテ  
置キマス、少シ日ガ經チマシタガ故ニ、此  
ノ件ノ起りヨリ大體ノ經過ノ概略ヲ先づ申  
上ゲテ、次ニ私竝ニ世間ノ疑トスル點ニ及  
ビタイト思ヒマス。

事ノ起リハ一月九日ト思ヒマス、一月ノ  
九日ニ英吉利政府ヨリ我國ニ向ヅテ、中立  
國ノ船船ノ上ニ交戰國人ガ乗ル場合ニ於テ  
ハ、現ニ軍ニ編入セラレザル者ト雖モ、十  
八歲以上五十歲マダノ者ハ、英吉利トシテ  
ハ之ヲ拉致スルコトガアル旨ノ公式ノ書面  
ガ參ツテ居ルノデアリマス、ソレガ一月ノ  
九日デアル、之ニ對シ何カ我國ノ武官ヨリ  
申出データ趣デアリマスルケレドモ、是ハ公  
式ノ外交折衝ヲ開イタト云フコトニハナツ  
テ居リマセヌ、斯ノ如クシテ經過致シマシ  
タガ、國民何人モ忘レマセヌ一月ノ二十一  
日正午過ニ、野島崎ノ沖デ我國郵船淺間丸  
ガ停船ヲ命ぜラレ、乗客タル獨逸人五十名  
中二十一名ガ拉致セラレタ、丁度ソレガ報  
道セラレマシタノハ、翌二十二日ノ朝デ、  
議會再開ノ當日デアツタ、ソコデ私方當日  
直チニ出シタ質問書ガ是ナノデアリマス、  
一月二十二日ノ晚ニハ、外務省ヨリ英吉利  
ス、清瀬一郎君ヨリ質問ノ答辯ニ對シ意見  
陳述ノ申出ガアリマス、此ノ際之ヲ許シマ  
シ

ニ抗議ヲ提出シタ、ソレカラ五日經ツテ、  
一月ノ二十七日ニ英吉利カラ回答ガ來タノ  
デアリマス、後ニ分ツタコトデアリマスル  
ガ、其ノ全文ハ十三項ヨリ成ツテ居ル、後  
ニ政府ガ發表シタ所デアリマスルガ、其ノ  
第二項ノ終リニ、併シナガラ英國政府ハ今  
次ノ如キ事件ガ、首都ノ間近ニ於テ發生ヲ  
見、日本ニ於テ深刻ナル憤激ヲ誘起シタデ  
モアラウコトハ、大ニ遺憾トスル旨ノ文  
字ガ附記サレテ居ルノデアリマス、是ガ後  
ニ私ノ質問ノ要點ニ關係致シマス、ソレガ  
一月ノ二十七日、二月ノ一日ニハ、日本カ  
ラ英吉利ヘ再通告致シマシテ、其ノ劈頭  
ニハ、英吉利ガ遺憾ノ意ヲ表シタコトハ、  
之ヲ承スルコトヲ幸トスルト云フ旨ヲ  
表示シテ居ラレル、是モ後ニ問題ニナリマ  
ス、斯クテ議會ハ再開サレマシテ、二月ノ  
五日ニ英吉利カラ我國ニ更ニ回答書様ノモ  
ノヲ寄セテ來マシタ、ソレニハ英吉利ハ、  
本件ヲ圓滿ニ解決セントスル英國政府ノ願  
望ノ證據トシテ、右乘組員中九名ヲ釋放シ  
マスト云フコトガ書イテアル、五日ノ日ニ  
ノヲ寄セテ來マシタ、ソレニハ英吉利ハ、  
之ヲ握リマシテ、六日ニ有田外務大臣ガ帝  
國議會ニ經過ヲ發表サレタ、併シナガラ發  
表サレマシタ經過ニ依リマシテモ、其ノ晚  
ニ倫敦ト東京ノ同時發表ニ依リマシテモ、  
日本ガ是カラ交戰國人中軍ニ編入サレタル  
者ノ外ニ、編入サレル疑ノアル者ヲモ船ニ  
乗セヌト云フコトヲ、英吉利ト協定シタト  
云フコトハ現ハレテ居ラヌ、ソコデ疑ガ生  
ズル、然ルニ不思議ナコトニハ、二月ノ七  
日「遞信省告示第二百七十四號」ト云フ告示  
ガ發表サレタ、二月十日ニハ「鐵道省告示  
第五十二號」ト云フモノガ發表サレマシタ、  
ココデ全國民ハ非常ナル疑ヲ持ツニ至ツタ  
ノデアリマス

遞信省ノ告示ヲ煩ハシイケレドモ、一寸  
讀ンデ見マス、一月七日「遞信省告示第二百  
七十四號」海運統制令第六條ニ依リ昭和十

五年二月五日ヨリ日本ノ運航業者ニ對シ歐洲交戦國人ノ内軍隊ニ編入セラレ居る者(其ノ疑アル者ヲモ含ム)ノ乘船引受ヲ禁止セリ、昭和十五年二月七日、遞信大臣勝正憲ト云フモノガアル、是モ簡單デアリマスルカラ讀ンデ見マス、「昭和十五年二月十日ヨリ下關釜山間連絡船ニ歐洲交戦國人ノ内軍隊ニ編入セラレ居ル者(其ノ疑アル者ヲ含ム)ノ乘船ヲ禁止ス、昭和十五年二月十日、鐵道大臣松野鶴平」斯ウ云フモノガ出テ居ノデス。

ソコデ疑問ノ第一ハ、斯ウ云フコトナンデス、軍ニ編入セラレ居ル者、其ノ他ニ其ノ疑アル者、之ヲ日本一般ノ船ハ申スニ及バズ、關釜連絡船ニ乗セナイ、東京ト京城ヲ繋グ幹線デアル所ノ關釜連絡船ニ、疑アル者ノ乘船ヲ禁ズル、其ノ事自身ガ既ニ海戰法規第八十二條ノ精神ニ反シテ居リマス、又外務省自身ノ發セラレタ二月一日ノ我方鐵道省告示、斯ウ云フモノガ一體何カ國內的ノ必要デ、偶然ニモ淺間丸事件ノ前後ニ發セラレタノカ、ソレトモ英吉利トノ間ノ外交交渉ノ結果、斯ウ云フモノヲ日本ガ發スルト云フコトヲ、英吉利ニ約束ノ上之ヲ入レタノカ、今支那ト戦争シテ居ル最中デアルカラ、何カ國內法條ノ必要ガアツテ、關釜連絡船ニ獨逸人ヲ乗セルコトハ、宜シクナイト云ツタヤウナニトガアツタノナラ、是ハ別デス、併シ日本ガ名譽ノ侵害ヲ受ケタト云フ淺間丸事件ノ解決方法トシテ、更ニ關釜連絡船ニ我國ノ海戰法規ヲ無視シタ所ノ命令ヲシナケレバナラヌ一札ヲ英吉利へ入レタノデアツカラ、國家ノ威信ヲ失墜スルコト非常ニ大デアリマス(拍手)

ソコデ此ノ問題ヲ研究スル爲ニハ、色々ナ廻リクドイ議論ヲスルヨリモ、此ノ一點ヲ決メレバ此ノ事ハ解決スル、英吉利ノ方ト云フモノガアル、是モ簡單デアリマスルノデス。英吉利ガ既ニ遺憾ノ意ヲ表シテハ我國ニ不完全デハアルケレドモ遺憾ノ意ヲ表シタ、一寸我國ヲ揶揄シタヤウナ書方デアリマス、假定デ、「シユッド・ハブ」若シ日本ガ憤慨シタノデモアツタナラバ、ソレハオ氣ノ毒ト云ツタヤウナ意味ニモ解釋出來マスケレドモ、兎モ角モ遺憾「リグレット」ト云フ字ハ使ツテアル、ソコデ問題ハ是デ分ル、若シモ此ノ遺憾ト云フ文字ガ、本當ニ外務大臣ガ御發表ノ通り一月二十日「クレーギー」ガ初メテ文書ヲ持ツテ來夕時ニ、遺憾ト云フ文字ガ初メカラアツタノデアルナラバ、獨逸人ヲ關釜連絡船ニ乗セヌト云フコトハ、交換條件デナカツタトモ言ヘル、併シナガラ此ノ遺憾ト云フ文字ガ實際ハ初メニナクシテ、段々交渉シタ後ニ、後カラ遡及シテ挿入サレタト云フノ後も言ヘル、併シナガラ此ノ遺憾ト云フ文字ガ實際ハ初メニナクシテ、段々交渉シタ後ニ、後カラ遡及シテ挿入サレタト云フノ後も言ヘル、併シナガラ此ノ遺憾ト云フ文字ガ實際ニ相成ルノデアリマスカラ、問題ヲ簡單ニシテ、ソレデ分ルト云フコトニ争點ヲ決メル爲ニハ、遺憾ノ意ヲ表スト云フ英語「オリヂナル」ニアツタノカ、ソレトモ其ノ頂戴シマセヌ、本當ニ確信ガアルナラバ、モウ一遍言ツテ御覽ナサイ、私ハドウシテモ一月二十七日ニハ、此ノ文字ハナカツタノモ一月二十七日ニハ、此ノ文字ハナカツタノ理由ヲ四五擧ゲテ、更ニ政府ノ所信ヲ質シタ

相ハ、二月六日ノ此ノ本會議ノ席上ニ於テモハ、十日ノ豫算委員會ノ席上ニ於テモ、初フコトハ、即チ此ノ時ニハ「リグレット」遺憾ノ意ハ表シテ居ラスト云フコトヲ、須磨サンガ言ツテ居ルニ相違ナイ、若シ一月二十七日ニ英吉利ガ既ニ遺憾ノ意ヲ表シテ居ツタノデアツタナラバ、國民ノ爲ニ其ノコトヲ言ハナケレバナラス、英吉利カラ及シタカラ、ソレハ文書偽造ダトカ、ソントナ小癢ナコトヲ言フノデハアリマセヌヨ、前ニ遡及スルコトモアリ得ル、交渉ノ都合デハアリ得ルノデス、ケレドモ前ニ遡及シテ、二十七日カラアツタノカ、或ハ二月一日ニヤウナ、無禮ナ言ヲ弄サレテ、此ノ答ヲ排棄サレテ居ル、私ハ法律家デスガ、前ニ遡及スルコトモアリ得ル、交渉ノ都合デハアリ得ルノデス、ケレドモ前ニ遡及シテ、二十七日カラアツタノカ、或ハ二月一日ニヤウナ、無禮ナ言ヲ弄サレテ、此ノ答ヲ排棄サレテ居ル、私ハナカラウト思フ、是ガ私ノ疑惑ノ意ヲ表シテ來タ、不完全ダケレドモソレダケハ來テ居ルゾト云フコトヲ國民ニ示サケレバナラスノヲ、遺憾ノ意ノ表明ナシト云フコトデ、却テ國民ヲ刺戟シタ結果ニナル、ソンナ無責任ナコトヲサレル情報部長ハ、私ハナカラウト思フ、是ガ私ノ疑惑ノ意ヲ表シテ此ノ事實ヲ申上ゲマスルガ、須磨情報部長ノ談ハ英吉利ニ電報サレテ居ル、英國ニ電報サレテ、二十八日ノ朝ノ「タイムス」ニ載ツテ居ル、之ニ依ルト須磨情報部長ハ、英吉利ノ「アート」ハ、法律ノ説明ノ外何物ニモアラズト云フコトヲ言ツテ居ル「ナッシング・バット・リーガリストティック・エキスピジョン」斯ウ云フ風ニ英國ニ打電サレテ居リマス、揉潰スコトハ出來ナイ、ソコデ「タイムス」ノ記者ハ、斯ウ云フコトヲ言ツテ居ル、日本ハナント言ウテモマダ若イ國柄ニアツテ、其ノ地位ニ付テハ神經過敏ナノダ、斯ウ云フ場合ニ必要ナコトハ、日本人ノ妄想「オブセッシヨン」ヲ覺シテヤルヤウナ何物カラ與ヘテヤルノ外ハアルマイト云フコトヲ批評シテ居ル、若シモ二十七日ニ遺憾ノ意ヲ表シテ居ツタラ、ソンナ無禮ナコトヲ英吉利ノ新聞ガ言フベキ筈ノモノデハナイ、ダカラ遺憾ノ意ハ初カラ表セラレテ居ラスト、此ノ一事デモ私ハ考ヘザルヲ得ヌノデアリマス

シテ居ル、何等政治上ノ考慮ヲシテ居ラヌテ、二月二十七日カラ二月六日マデ、第二ニ、一月二十七日カラ二月六日マデ、新開ト云フ新聞、如何ナル日刊新聞デモ、浅書ヲ讀ンデ居ル、長文デアルト云フコトハ、ハ、之ヲ必要トシタ、ソレニ對シテ有田外

間丸事件ヲ取上げザルモノハナイ、新聞ノ  
社説ハ色々アルガ、要スルニ英國陳謝セヨ  
ト云フコトデアツテ、私共ハ演説會モ開イ  
タ、結局ハ二十一人ヲ取戻セ、英國ヲ陳謝  
セシメヨト云ウテ、十日間モ國民が英國ニ  
陳謝ヲ求メテ居ルノニ、若シ二十七日ニ陳  
謝状ヲ有田サンガ懷ロニ入レテ居ツタ云  
フナラバ、是ハ甚ダ職務ニ對シテ相濟マヌ  
(拍手)諸君ハサウ言フケレドモ、英國ハ實  
ハ不完全ダケレドモ、陳謝ハシテ居ルノダ  
ト云フコトヲ、國民ニ發表シカレバナラ  
ス告テアリマス、ソレヲ御發表ニナツテ居  
ラヌ、ダカラニ二十七日ノ陳謝ハ、アレハ嘘  
デアリマセウ、本當ニアツタナラバ、アナ  
タハ任務ニ違反シタモノデアル、今日只今  
ノ「メール」デ、是亦二月七日附ノ「タイム  
ス」ガ到著シマシタ、之ニ依リマスルト、  
有田サンモ歸ツテ御覽ヲ願ヒタイ、アナタ  
ノコトハ大變褒メテ書イテアリマス、ソレ  
ニ依ルト、大體ノ意味デ言ヒマスケレドモ、  
此ノ外交ハ常識ニ適ツタコトダ、英吉利ノ  
方デ日本ニ深刻ナル憤激ヲ起サシタコトヲ  
遺憾ナリト稱ヘタコトハ、ソレガ爲ニ英國  
ノ外交ノ弱カツタコトヲ證明スルモノデハ  
ナイノダ、何トナレバ、日本ハ其ノ交換條  
件トシテ、今後ハ單ニ編入セラレタル者竝  
ニ軍ニ編入セラレル疑アル者ヲ、船ニ乗セ  
ヌト云フコトヲ約束シテ居ルノダ、斯ノ如  
キ約束ガアルコトカラ見レバ、英吉利ノ本  
來ノ態度ガ正シカツタ云フコトヲ、日本  
ガ承認シテ居ルノデハナイカ、ダカラ遺憾  
ト云フ文字ヲ使ウテモ、是ハ何デモナイノ  
ダ、斯ウ云フノデス、代價トシテト云フ文  
字ハ、「ラテン」語デ、クイッド、プロ、ク  
オ」ト書イテアリマス、英語デ「サムシン  
グ」、フォア、サムシング」交換物デス、即  
チ遺憾ト云フ文字ヲ使フ交換物トシテ、代  
價トシテ、日本ハ是カラハ交戦國軍人及ビ  
軍ニ編入サレタル疑アル者ヲモ、船ニ乗セ

ナイト云フ交換物ヲ出シタノダカラ、其ノ  
交換物ノ代價トシテ「レグレット」ト云フ文  
字ヲ使ツテモ、別段英吉利ノ國威ハ失墜セ  
スト云フコトヲ言ツテ居ル、是ハ新聞記事  
デス、新聞記事ダカラト云フ御答ガアルカ  
分リマセヌケレドモ、茲ニ私ハ文句ガアル、  
二月七日ノ朝刊デアル、鐵道省ノ告示ヲサ  
レタノハ二月十日デアリマス、遞信省ハ同  
日以前ニハ、交戰國人ハ軍ニ編入セラレス  
デモ、疑アル者サヘモ日本ハ船ニ乗セヌノ  
(拍手)英國ノ内部カラ漏レタモノデアルト  
ダト云フコトヲ知ラナイ時ナノダ、其ノ以前  
ニ書イテアル新聞デアリマスルガ故ニ「タ  
イムス」ニハ占者ガ居ル譯デモアリマセヌ  
(拍手)英國ノ内部カラ漏レタモノデアルト  
考ヘザルヲ得ナイ、サウスルトヤハリアナ  
タ方ハ、國民ニハ黙ツテ居ラレルケレドモ、  
吾々ニハ此ノ消息ハ御傳ヘニナラヌケレド  
モ、英吉利ニ對シテハドウカ、國民ガ騒グ  
カラ遺憾ト云フ文字ヲ何トカ入れテ吳レ、  
サウスルト獨逸人ハ軍人デモ疑アル者デモ  
之ヲ乗セヌ、日本ノ幹線デアル下關釜山連  
絡船ニマデモ之ヲ乗セヌノダカラ、之ヲ入  
レテ吳レト云フ内證ノ密約、闇取引ヲアナ  
タハナサツテ居ルト云フコトヲ、證明サレ  
テ居ルノデアリマス(拍手)私ハ非常ニ明瞭  
ナコトト思フ、實ニ殘念ナコトデアリマス、  
私ハ所謂消息通デモ何デモナイ、所謂璽棧  
ノ始まりハ野島崎ノ三十五浬先、是ハ太平  
洋デス、ソレデモ臨檢拿捕スル權利ノアルコトヲ、公式  
船ヲ臨檢拿捕スル權利ノアルコトヲ申シテ、  
ニ御認ニナツタノデアリマスカ、此ノ問題  
ト、此ノ遞信省告示ト鐵道省告示ト云フモ  
利ガ停船ヲ命シテ、臨檢ヲシテ、之ヲ拉致  
スルコトヲ防グ爲デアリマセウ、サウスル  
アルカ、ソレハ若シモ乗セタナラバ、英吉  
利ガ停船ヲ命シテ、臨檢ヲシテ、之ヲ拉致  
スルコトヲ防グ爲デアリマセウ、サウスル  
拿捕、臨檢等ヲ認メタガ如キ妥結ヲサレタ  
コトノ價值判断、善惡ニ付テ意見ガアルナ  
ラバ仰シヤイマセ、洵ニ結構ナコトデアル  
ト言ヘルナラバ、仰シヤツテ御覽ナサイ  
第三ニ、私ハ少シ國內法ノコトニ付テ鐵  
道大臣、遞信大臣ニ御伺シタイ、ソレハ遞  
信省ノ告示ニハ、特ニ海運統制令ノ第六條  
ガ引用サレテ居リマス、如何ニ遞信省ト  
雖モ、法律ノ根據ナクシテ獨逸人ヲ乗セ  
ルナト言フコトハ出來ナイ、根據ヲ何ニ  
テ居ル、海運統制令第六條、是モ簡單デア  
リマスカラ讀シテ見マス「遞信大臣ハ航路若  
ハ區域ヲ指定シ若ハ一般的ニ船舶ヲ指定シ  
テ航海ヲ禁止シ若ハ制限シ又ハ一般的ニ人

トデアツタ、第三回ハ三十一日デアリマシ  
タガ、此ノ時ノ須磨情報部長發表ハ、更ニ  
實際的並ニ政治的考慮ニ依ツテ、約一時間  
ニ瓦ツテ討議ヲシタ、前後ハ少シアリマス  
ケレドモ、要點ヲ言ヒマスト、斯ウ云フコ  
トナノデス、即チ此ノ間ニ英國ト妥結ノ上  
ルナラ言ツテ御覽ナサイ、必ズサウアルベ  
此ノ文字ガ挿入サレタノデハアルマイカ、  
キモノデアリマス、要スルニ先ヅ「レグレッ  
ト」條項ノ成立シタ時ヲ押ヘテ、果シテ是ガ  
我國ノ國威ニ重大關係ノアル釜山下關航路  
ノ乘船禁止、是ト一環ニナツタ、「バラン  
ス」シタモノデアルカナイカト云フコトニ付  
ト、私ハマダ疑ヲ持ツテ居ル、疑ヲ持ツテ  
居ルト言ハシヨリモ、寧ロ政府ノ言明ヲ信  
ジナイ、恐ラク全國ノ國民之ヲ信ズル者ハ  
ナイト思ヒマス(拍手)有田外相ガ如何ニ辯  
明はレ努メラレテモ、英國ノ遺憾ノ文字ガ  
二十七日ニ存在セリト云フコトヲ信ズル識  
者ハ、日本ニハナナイト思ヒマス(拍手)是ガ  
疑ノ第一デアリマス

第二ハ、一體釜山下關ノアノ航路ニ、軍  
ニ編入セラレタル者又ハ其ノ疑ノアル者ヲ  
タハナサツテ居ルト云フコトハ、ドウ云フ譯ノモノデ  
之ヲ乗セヌ、日本ノ幹線デアル下關釜山連  
絡船ニマデモ之ヲ乗セヌノダカラ、之ヲ入  
レテ吳レト云フ内證ノ密約、闇取引ヲアナ  
タハナサツテ居ルト云フコトヲ、證明サレ  
テ居ルノデアリマス(拍手)私ハ非常ニ明瞭  
ナコトト思フ、實ニ殘念ナコトデアリマス、  
私ハ所謂消息通デモ何デモナイ、所謂璽棧  
ノ始まりハ野島崎ノ三十五浬先、是ハ太平  
洋デス、ソレデモ臨檢拿捕スル權利ノアルコトヲ、公式  
船ヲ臨檢拿捕スル權利ノアルコトヲ申シテ、  
ニ御認ニナツタノデアリマスカ、此ノ問題  
ト、此ノ遞信省告出ト鐵道省告出ト云フモ  
利ガ停船ヲ命シテ、臨檢ヲシテ、之ヲ拉致  
スルコトヲ防グ爲デアリマセウ、サウスル  
拿捕、臨檢等ヲ認メタガ如キ妥結ヲサレタ  
コトノ價值判断、善惡ニ付テ意見ガアルナ  
ラバ仰シヤイマセ、洵ニ結構ナコトデアル  
ト言ヘルナラバ、仰シヤツテ御覽ナサイ  
第三ニ、私ハ少シ國內法ノコトニ付テ鐵  
道大臣、遞信大臣ニ御伺シタイ、ソレハ遞  
信省ノ告示ニハ、特ニ海運統制令ノ第六條  
ガ引用サレテ居リマス、如何ニ遞信省ト  
雖モ、法律ノ根據ナクシテ獨逸人ヲ乗セ  
ルナト言フコトハ出來ナイ、根據ヲ何ニ  
テ居ル、海運統制令第六條、是モ簡單デア  
リマスカラ讀シテ見マス「遞信大臣ハ航路若  
ハ區域ヲ指定シ若ハ一般的ニ船舶ヲ指定シ  
テ航海ヲ禁止シ若ハ制限シ又ハ一般的ニ人





○議長(小山松壽君) 御異議ナイト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラマシタ、	日程第七、市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案、日程第八、現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(日程第九、職業紹介法中改正法律案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長服部岩吉君)
第七 市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案(政府提出)	第一讀會ノ續(委員長報告)
第八 現役小學校教員俸給費國庫負擔法中改正法律案(政府提出)	第一讀會ノ續(委員長報告)
第九 職業紹介法中改正法律案(政府提出)	第一讀會ノ續(委員長報告)

一 青年學校ノ重要性ニ鑑ミ速ニ義務教育費國庫負擔法ヲ制定スヘシ	二 町村小學校教員ノ異動ニ關シテハ當該町村長ノ意見ヲ徵スヘシ
三 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ	四 小學校教員ヲシテ官僚化ニ陷ラシメサル様最善ノ考慮ヲ拂フヘシ
五 小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ	六 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
七 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ	八 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
九 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ	十 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ

一 職業紹介法中改正法律案(政府提出)	一 職業紹介法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也	右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十五年三月十八日	昭和十五年三月十八日
委員長 服部 岩吉	委員長 服部 岩吉
(服部岩吉君登壇)	(服部岩吉君登壇)

○服部岩吉君 只今上程サレマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案外一件委員會ノ經過並ニ結果ニ付御報告申上ゲマス	○服部岩吉君 只今上程サレマシタ市町村義務教育費國庫負擔法改正法律案外一件委員會ノ經過並ニ結果ニ付御報告申上ゲマス
二 青年學校ノ重要性ニ鑑ミ速ニ義務教育費國庫負擔法ヲ制定スヘシ	二 青年學校教員ノ異動ニ關シテハ當該町村長ノ意見ヲ徵スヘシ
三 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ	三 地方視學ノ待遇ヲ高メ素質ノ向上ヲ圖リ教育行政ヲ完カラシムヘシ
四 小學校教員ヲシテ官僚化ニ陥ラシメサル様最善ノ考慮ヲ拂フヘシ	四 小學校教員ヲシテ官僚化ニ陥ラシメサル様最善ノ考慮ヲ拂フヘシ
五 小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ	五 小學校養護婦令ヲ速ニ制定スヘシ



一家畜傳染病豫防法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 小林 絹治  
衆議院議長小山松壽殿

報告書

一牧野法中改正法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 小林 絹治  
衆議院議長小山松壽殿

報告書

一獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案(政府提出、貴族院送付)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 小林 絹治  
衆議院議長小山松壽殿

報告書

○小林絹治者(小林絹治君登壇)

裝蹄師法案、家畜傳染病豫防法中改正法律案、牧野法中改正法律案、獸醫師法等ノ臨時特例ニ關スル法律案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ三月十三日ヨリ三月十九日ニ至ルマデ、五回ニ亘り會議ヲ開キ、慎重ニ審議致シタノデアリマス

先づ裝蹄師法案ニ付テ申上ゲマス、本案ノ内容ハ、裝蹄師ノ資格條件ヲ規定シ、裝蹄師以外ノ者ノ行爲ヲ取締ルコト、是ハ裝蹄技術ノ巧拙ハ、直チニ馬ノ四肢體軀ニ影響ガアルカラデアリマス、又法人ノ裝蹄師

會ヲ設立シテ、裝蹄師ノ統制アル活動ヲ圖ラントスルノデアリマス、現行法ハ明治二十三年ノ制定ニ係リマシテ、是ガ改正ハ寧ろ遲キニ失シテ居ツタノデアリマス、次ニ家畜傳染病豫防法中改正法律案ハ、現行法ニ依ル家畜傳染病ノ種類ノ中へ、ダニ熱、雞白痢、家禽「ペスト」ノ三種類ヲ追加スルコト、傳染病デ斃レタ牛馬羊豚ノ皮ノ利用ニ關スルコト等ニ改正ヲ加ヘントルモノデアリマス

次ニ獸醫師法ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、事變ノ影響上、召集等ニ依ル獸醫師ノ不足ヲ來シテ居ルノニ加ヘマシテ、時局下ニ於テ必要ナル畜產擴充計畫ノ遂行上、内外地及ビ大陸ニ於テ、獸醫師ノ需要ガ急激ナイノデ、此ノ實情ニ應ズル爲ニ、臨時的ノ措置トシテ、新ニ獸醫手ノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス

終リニ牧野法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、本案ハ馬ノ增産及び資質向上ノ爲、牧野ノ整備擴大ヲ圖ラントスルモノデアリマス、案ノ內容ハ大體五ツノ點カラ成ツテ居リマス、其ノ第一ノ點ハ、牧野特定地ノ制度ヲ設ケテ、牧野ノ減少ヲ防ガントスルコトデアリマス、第二ノ點ハ、民ノ未だ利用シテ居ラナイ土地ヲ、牧野トシテ使用收用シ得ル途ヲ開クコトデアリマス、第三ノ點ハ、牧野組合ノ機能ヲ擴大シテ、牧野ノ經營ニ當リ得ルコトト致シ、又總代會ノ制度ヲ設ケル等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第四ノ點ハ、牧野經營ノ積極的指導デアリマシテ、是ガ為ニ牧野組合等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第五ノ點ハ、以上ノ如ク民

上ガマス、牧野ノ擴大ヲ圖ツテモ、今後政府ガ國有林ヲ馬產ノ爲ニ開放スル決意ガナケレバ、所期ノ效果ヲ期待スルコトハ出來ナイガ、政府ノ考ハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニノデアリマス、質疑應答ノ主ナルモノニ二三申述ツテハ、牧野委員會ヲ設ケテ民間ノ意見ヲ尊重シ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニニ熱、雞白痢、家禽「ペスト」ノ三種類ヲ追加スルコト、傳染病デ斃レタ牛馬羊豚ノ皮ノ利用ニ關スルコト等ニ改正ヲ加ヘントルモノデアリマス

次ニ獸醫師法ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、事變ノ影響上、召集等ニ依ル獸醫師ノ不足ヲ來シテ居ルノニ加ヘマシテ、時局下ニ於テ必要ナル畜產擴充計畫ノ遂行上、内外地及ビ大陸ニ於テ、獸醫師ノ需要ガ急激ナイノデ、此ノ實情ニ應ズル爲ニ、臨時的ノ措置トシテ、新ニ獸醫手ノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス

終リニ牧野法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、本案ハ馬ノ增産及び資質向上ノ爲、牧野ノ整備擴大ヲ圖ラントスルモノデアリマス、案ノ內容ハ大體五ツノ點カラ成ツテ居リマス、其ノ第一ノ點ハ、牧野特定地ノ制度ヲ設ケテ、牧野ノ減少ヲ防ガントスルコトデアリマス、第二ノ點ハ、民ノ未だ利用シテ居ラナイ土地ヲ、牧野トシテ使用收用シ得ル途ヲ開クコトデアリマス、第三ノ點ハ、牧野組合ノ機能ヲ擴大シテ、牧野ノ經營ニ當リ得ルコトト致シ、又總代會ノ制度ヲ設ケル等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第四ノ點ハ、牧野經營ノ積極的指導デアリマシテ、是ガ為ニ牧野組合等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第五ノ點ハ、以上ノ如ク民

上ガマス、牧野ノ擴大ヲ圖ツテモ、今後政府ガ國有林ヲ馬產ノ爲ニ開放スル決意ガナケレバ、所期ノ效果ヲ期待スルコトハ出來ナイガ、政府ノ考ハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニノデアリマス、質疑應答ノ主ナルモノニ二三申述ツテハ、牧野委員會ヲ設ケテ民間ノ意見ヲ尊重シ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニニ熱、雞白痢、家禽「ペスト」ノ三種類ヲ追加スルコト、傳染病デ斃レタ牛馬羊豚ノ皮ノ利用ニ關スルコト等ニ改正ヲ加ヘントルモノデアリマス

次ニ獸醫師法ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、事變ノ影響上、召集等ニ依ル獸醫師ノ不足ヲ來シテ居ルノニ加ヘマシテ、時局下ニ於テ必要ナル畜產擴充計畫ノ遂行上、内外地及ビ大陸ニ於テ、獸醫師ノ需要ガ急激ナイノデ、此ノ實情ニ應ズル爲ニ、臨時的ノ措置トシテ、新ニ獸醫手ノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス

終リニ牧野法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、本案ハ馬ノ增産及び資質向上ノ爲、牧野ノ整備擴大ヲ圖ラントスルモノデアリマス、案ノ內容ハ大體五ツノ點カラ成ツテ居リマス、其ノ第一ノ點ハ、牧野特定地ノ制度ヲ設ケテ、牧野ノ減少ヲ防ガントスルコトデアリマス、第二ノ點ハ、民ノ未だ利用シテ居ラナイ土地ヲ、牧野トシテ使用收用シ得ル途ヲ開クコトデアリマス、第三ノ點ハ、牧野組合ノ機能ヲ擴大シテ、牧野ノ經營ニ當リ得ルコトト致シ、又總代會ノ制度ヲ設ケル等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第四ノ點ハ、牧野經營ノ積極的指導デアリマシテ、是ガ為ニ牧野組合等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第五ノ點ハ、以上ノ如ク民

上ガマス、牧野ノ擴大ヲ圖ツテモ、今後政府ガ國有林ヲ馬產ノ爲ニ開放スル決意ガナケレバ、所期ノ效果ヲ期待スルコトハ出來ナイガ、政府ノ考ハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニノデアリマス、質疑應答ノ主ナルモノニ二三申述ツテハ、牧野委員會ヲ設ケテ民間ノ意見ヲ尊重シ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニニ熱、雞白痢、家禽「ペスト」ノ三種類ヲ追加スルコト、傳染病デ斃レタ牛馬羊豚ノ皮ノ利用ニ關スルコト等ニ改正ヲ加ヘントルモノデアリマス

次ニ獸醫師法ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、事變ノ影響上、召集等ニ依ル獸醫師ノ不足ヲ來シテ居ルノニ加ヘマシテ、時局下ニ於テ必要ナル畜產擴充計畫ノ遂行上、内外地及ビ大陸ニ於テ、獸醫師ノ需要ガ急激ナイノデ、此ノ實情ニ應ズル爲ニ、臨時的ノ措置トシテ、新ニ獸醫手ノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス

終リニ牧野法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、本案ハ馬ノ增産及び資質向上ノ爲、牧野ノ整備擴大ヲ圖ラントスルモノデアリマス、案ノ內容ハ大體五ツノ點カラ成ツテ居リマス、其ノ第一ノ點ハ、牧野特定地ノ制度ヲ設ケテ、牧野ノ減少ヲ防ガントスルコトデアリマス、第二ノ點ハ、民ノ未だ利用シテ居ラナイ土地ヲ、牧野トシテ使用收用シ得ル途ヲ開クコトデアリマス、第三ノ點ハ、牧野組合ノ機能ヲ擴大シテ、牧野ノ經營ニ當リ得ルコトト致シ、又總代會ノ制度ヲ設ケル等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第四ノ點ハ、牧野經營ノ積極的指導デアリマシテ、是ガ為ニ牧野組合等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第五ノ點ハ、以上ノ如ク民

上ガマス、牧野ノ擴大ヲ圖ツテモ、今後政府ガ國有林ヲ馬產ノ爲ニ開放スル決意ガナケレバ、所期ノ效果ヲ期待スルコトハ出來ナイガ、政府ノ考ハドウカトノ質疑ニ對シマシテ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニノデアリマス、質疑應答ノ主ナルモノニ二三申述ツテハ、牧野委員會ヲ設ケテ民間ノ意見ヲ尊重シ、各地方ノ實情ニ適スルヤウニニ熱、雞白痢、家禽「ペスト」ノ三種類ヲ追加スルコト、傳染病デ斃レタ牛馬羊豚ノ皮ノ利用ニ關スルコト等ニ改正ヲ加ヘントルモノデアリマス

次ニ獸醫師法ノ臨時特例ニ關スル法律案ハ、事變ノ影響上、召集等ニ依ル獸醫師ノ不足ヲ來シテ居ルノニ加ヘマシテ、時局下ニ於テ必要ナル畜產擴充計畫ノ遂行上、内外地及ビ大陸ニ於テ、獸醫師ノ需要ガ急激ナイノデ、此ノ實情ニ應ズル爲ニ、臨時的ノ措置トシテ、新ニ獸醫手ノ制度ヲ設ケントスルノデアリマス

終リニ牧野法中改正法律案ニ付テ申上ダマス、本案ハ馬ノ增産及び資質向上ノ爲、牧野ノ整備擴大ヲ圖ラントスルモノデアリマス、案ノ內容ハ大體五ツノ點カラ成ツテ居リマス、其ノ第一ノ點ハ、牧野特定地ノ制度ヲ設ケテ、牧野ノ減少ヲ防ガントスルコトデアリマス、第二ノ點ハ、民ノ未だ利用シテ居ラナイ土地ヲ、牧野トシテ使用收用シ得ル途ヲ開クコトデアリマス、第三ノ點ハ、牧野組合ノ機能ヲ擴大シテ、牧野ノ經營ニ當リ得ルコトト致シ、又總代會ノ制度ヲ設ケル等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第四ノ點ハ、牧野經營ノ積極的指導デアリマシテ、是ガ為ニ牧野組合等ニ對シ、必要ニ應ジテ技術ヲ促進スルコトデアリマス、第五ノ點ハ、以上ノ如ク民

○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、商業組合法中改正法律案、輸出毛織物取締法案、損害保険國營再保險特別會計法案、右三案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其

一損害保險國營再保險特別會計法案（政  
府提出）

ヤ「地下足袋」カーバイド」其ノ他般物資ノ配給統制ニ付テ、各委員ヨリ質疑ガアリマシタガ、政府ヨリハ各委員ヲ十分納得セシメ、此ノ法案ノ運用ニ依リマシテ、小商業者ノ救濟ニ大イン役立テルコトガ出来ル

○服部崎市君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス  
○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

ノ審議ヲ進メラエンコトヲ望ミマス  
○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

昭和十五年三月十九日

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

○議長（小山松壽君）御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ更セラレマンシタ、商業組合法中改正法律案、輸出毛織物取締法案、損害保険國營再保險特別會計法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長井上知治君

〔井上知治君登壇〕

ス、本法律案ハ、輸出毛織物ニ對シマシ  
國營検査ヲヤリ、之ニ合格シタルモノニ  
ラザレバ、販賣ノ目的ヲ以テ輸出スルコ  
ヲ得ザラシムルト云フ法律案デアリマシ  
粗悪品ノ輸出ヲ防止シ、海外市場ニ於ケ  
聲價ヲ維持シ、更ニ進ンデ品質ノ改善高  
シニ至ル。此乃モ、本邦毛織業者ノ爲也。

商業組合法中改正法律案	第一讀會(確定議)
輸出毛織物取締法案	第二讀會(確定議)
損害保險國營再保險特別會計法案	第二讀會(確定議)
○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマ	第一讀會(確定議)

商業組合法中改正法律案(政府提出)  
輸出毛織物取締法案(政府提出、貴族院  
送付) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
損害保險國營再保險特別會計法案(政  
府提出) 第一讀會ノ續(委員長報告)  
一商業組合法中改正法律案(政府提出)  
右ハ本院ニ於ニ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也

クマス、商業組合制度ハ、昭和七年ニ創設シテ、其後順調ノ發達ヲ遂ゲテ參りマシタガ、支那事變以來、商業組合ハ物資配給、物價統制機關トシテ、統制經濟上重要ナル地位ヲ占ムルニ至リマシタガ、最近ノ中小商業者ノ實情ハ、現行ノ商業組合制度ヲ利用シタクテモ利用スル能ハザル、多數ノ取扱サレタル小商業者ガ生ジマシタノデ、是守小商業者ノ救濟更生ヲ圖ルヲ主眼トシマシテ、併セテ商業組合ノ物資統制上占ムル重要性ニ鑑ミマシテ、其ノ監督取締指導ヲヘルト云フコト、此ノ二點ヲ重點トシテ本邦之去來是當ヨリアリマス、實

但テ健シ毛織物ノ輸出振興ア國ラント處置、原毛獲得、特ニ「リンク」制ニ關ス事項、海外市場調査、見本蒐集、其他羊毛業ノ改善策達成ニ其ノ輸出振興ニ付テ、委員ヨリ適切ナル質問ガアリ、政府當局リ懇切ナル御答辯ガアリマシテ、質疑ヲ了シ、討論ヲ省キ、一致可決セラレタノアリマス。

最後ニ損害保險國營再保險特別會計法ニ付テ申上ゲマス、本案ハ先般本院ニ於可決セラレマシタ損害保險國營再保險法

セヌ、第三讀會ヲ省略シテ、三案トモ委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）  
○服部崎市君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ  
提出致シマス、即チ此ノ際政府提出、臨時  
資金調整法中改正法律案、陸軍作業會計  
法、陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工  
廠資金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案、  
右兩案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ  
求メ、其ノ審議ヲ進メラレントラ望ミマ  
ス  
○議長（小山松壽君） 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

昭和二十五年三月一日  
衆議院議長 小山松壽殿 委員長 井上 知治

正法案が提出せられ、元ナリヤノ質問ノ要點ヲ申シマスト、第一ハ、現在商業組合制度ノ外ニ、重要物産同業組合ト云フ

附屬法案デアリマシテ、其ノ資金八千二  
万圓ノ圓滑ナル運用ヲ爲スベシト云フコ  
ノ政府ニ要望シマシテ、質問付論ヲ丁切リ

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕  
○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、臨時賛

一輸出毛織物取締法案(政府提出、貴族院  
送付)  
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致  
候此段及報告候也  
昭和十五年三月十九日

組合制度がアルガ、此ノ同業組合制度ト商業組合制度トハ、其ノ關係ヲ政府ハ如何ニ  
考ヘニナツテ居ルカ、第二ハ、商業小組合制度ノ創設ハ、洵ニ結構デハアルガ、今日  
工業小組合制度ノ實情ニ鑑ミル時、果シ  
此ノ法案ノ狙ツテ居ル目的ヲ達シ得ルヤ

○議長（小山松壽君） 三案ノ第二讀會ヲ  
クニ御異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ  
○議長 小山松壽君 御異議ナシト忍メ

金調整法中改正法律案、陸軍作業會計法、  
陸軍航空工廠資金特別會計法及海軍工廠資  
金會計法ノ臨時特例ニ關スル法律案、右兩  
案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委  
員長ノ報告ヲ求メマス——委員長紫安新九  
郎君

衆議院議長小山松壽殿 委員長井上知治

マシタ、其ノ地主様食料品、調査、「タイ  
悪用スル虞ハナイカト云フヤウナ點デア  
吉ヤ、第三ハ、組合ノ監督取締制度ヲ政府

タス、仍テ三案ノ第一讀會ヲ開クニ決シマ

# 臨時資金調整法中改正法律案（政府提出） 第一讀會ノ讀（委員會該取引）



報告書

一昭和十三年度特別會計豫備費支出ノ件  
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議  
決致候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 紫安新九郎

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一昭和十四年度第二豫備金支出ノ件  
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議  
決致候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

衆議院議長小山松壽殿

報告書

一昭和十四年度豫備金外豫算外支出ノ件  
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議  
決致候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 紫安新九郎

報告書

一昭和十四年度豫備金外豫算外支出ノ件  
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議  
決致候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 紫安新九郎

報告書

一昭和十四年度豫備金外豫算超  
過及豫算外支出ノ件  
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議  
決致候此段及報告候也

昭和十五年三月十九日

委員長 紫安新九郎

報告書

○紫安新九郎君登壇  
昭和十三年度第一豫備金支出外六件ニ對ス  
ル委員會ノ經過竝ニ其ノ結果ヲ御報告致シ  
マス、昭和十三年度ニ於テハ一般會計第一  
豫備金ヨリ千九百七十五万餘圓、特別會計  
第一豫備金ヨリ八百六万餘圓、同豫備費ヨ  
リ二千万圓、合計五千七百八十一萬餘圓ヲ支  
出シテ居リマス、次ニ昭和十四年度ニ於テ  
ハ、一般會計第一豫備金ヨリ六千万圓、特  
別會計第二豫備金ヨリ八百三十八万餘圓、  
合計六千八百三十八万餘圓ヲ支出致シテ居  
リマス、尙ホ昭和十四年度一般會計豫備金  
外ニ於テ、國庫剩餘金ヲ以テ豫算外ノ支出  
ヲ致シテ居ルモノガ五百五十四万餘圓、特  
別會計豫備金外ニ於テ、其ノ歳入金ヲ以テ  
豫算超過ノ支出ヲ致シテ居ルモノガ千四百  
二十二万餘圓、國庫剩餘金ヲ以テ豫算外支  
出ヲ致シテ居ルモノガ千四百二十六万餘圓  
デアリマス、豫備金外支出ノ合計ハ三千四  
百三万餘圓デアリマス、以上各案ニ對シテ  
委員會ハ全會一致ヲ以テ承認ヲ與フルニ決  
シマシタ、此ノ段御報告致シマス(拍手)  
○議長(小山松壽者) 昭和十三年度第一豫  
備金支出ノ件外六件ハ承諾ヲ與フルニ御異  
議アリマセヌカ  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(小山松壽者) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ七件トモ承諾ヲ與フルニ決シマシ  
タ  
附帶決議

一 政府ハ速ニ肥料ノ國家管理ヲ斷行ス  
ベシ

二 政府ハ主要農產物ノ生産ニ對シ他ノ  
總テノ物資ニ優先シテ各種肥料ノ供給  
ヲ確保スベシ

三 政府ハ中央地方ヲ通ジ各種肥料配給  
機構ヲ整備シ敏速且圓滑ナル配給ニ遺  
憾ナキヲ期スベシ

○議長(小山松壽者) 御異議ナシト呼フ者アリ  
斯ニ付更ニ徹底ヲ期スベシ  
五 政府ハ速ニ飼料ノ配給ヲ圓滑ニシ家  
畜ノ增産ヲ圖リ自給肥料ヲ獎勵スベシ  
(熊谷直太君登壇)

日本肥料株式會社法案(政府提出)  
第一讀會ノ續(委員長報告)

ハ是ガ指導監督ヲ嚴重ニ致シマシテ、事業遂行上重要ナル事項ニ付キマシテハ、政

府ノ認可ヲ受ケシムル等ノ措置ヲ講ジマス、又利益ノ配當ニ付キマシテモ、之ヲ制限スルコト致シテ居ルノデアリマス、更ニ肥料ノ製造業者、取扱業者ハ、其ノ製造又ハ

取扱ニ係リマスル肥料ヲ、本會社ニ對シテ賣渡スベキ旨ノ規定ヲ設ケマシテ、以テ本

會社ノ行ヒマスル所ノ配給統制事業ノ遂行ニ遺憾ナキコトヲ期シテ居ルノデアリマス、

本法制定ノ趣旨ニ付キマシテハ、委員各位ハ何レモ贊意ヲ表シタノデアリマスルガ、

本法案ノ重要性ノ爲ニ、政府當局トノ間ニ非常ニ熱心ナル質疑應答ガ重ネラレタノデアリマス、即チ各委員ハ全部質疑ヲ試ミ、政府之ニ對シテ應答スルト云フ状態デアツタノデアリマス、其ノ詳細ノ點ニ付キマシテハ、中々長ク掛リマスカラ、一々御報告申上ゲル譯ニ參リマセヌノデ、速記錄ニ依ツテ御承知ヲ願ヒタイト思ヒマス、併シ其ノ重要ナル二三ノ點ニ付キマシテ、茲ニ御報告申上ゲテ置キタイト思ヒマス

ソレハ第一ニハ、肥料ノ配給ノ圓滑ヲ圖ル爲ニハ、本法案ニ依リマシテ、中樞配給機構ヲ整備統合スルノミデハ不十分デアル、地方ニ於ケル所ノ配給機構ノ一元化、又ハ配給設備ノ簡易化ヲ圖ルベキデハナイカト云フ質問ガアツタノデアリマス、之ニ對シテ政府ハ、地方ニ於キマスル配給機構ヲ一層整備致シ、又ハ簡易化スルコトハ贊成デアルカラ、肥料配給ノ實情ニ即シマシテ、善處シタイト云フ所ノ答辯ガアツタノデアリマス

第二ニハ、本會社ニ依ル肥料増産ノ具體的方法如何、又本法案ニ依ツテ爲シ得ル肥料製造工場ノ經營ノ管理ハ、之ヲ更ニ強化シタルモノトスルノ要ハナイカ、即チ肥料製造工場ノ合同ヲ圖ルノ意思ハナイカドウカト云フ點デアリマス、之ニ對シマシテ政

府ハ、肥料ノ供給確保ニ付キマシテハ、本

會社ノ爲ス肥料製造事業ニ對スル投資、肥料ノ製造、肥料製造工場ノ經營ノ管理等ノ方法ニ依ルノ外、更ニ肥料ノ供給確保ニ關係他ノ法令及ビ諸施設ノ運用實施ニ依ツ

テ、之ヲ行ツテ參リタイト云フ答辯デアツタノデアリマス

第三ハ、今、明肥料年度ニ於ケル肥料、殊ニ硫安ノ供給ニ不安ナキヤト云フ點デアリマス、是ハ洵ニ重大ナル點デアリマス、此ノ點ニ對シマシテハ、政府ハ、今年度ニ於ケル硫安等ノ統制肥料ニ付キマシテハ、曩ニ地方ニ割當テタルモノノ配給ニ付テハ不安ハナイ、大豆油粕ニ付テハ、現在マデニ相當數量ノ輸入ヲ見タガ、尙ホ今後極力溝洲ヨリノ輸入等ニ依リ、供給ノ確保ヲ圖ルト共ニ、是ガ配給ノ適正ヲ圖リタイ、又魚粕ノ供給増加ニモ一層努力スルノ外、他ノ難粕ノ供給及ビ配給ノ統制、自給肥料ノ獎勵等ヲモ併セテ努力中デアル、更ニ明年度以降ニ於ケル硫安等ノ供給ニ付キマシテハ、出來ルダケノ措置ヲ講ジテ居ルガ、之ニ併セテ肥料ノ消費ヲ合理化シ、又之ヲ調整シテ、肥料ノ需給ニ不安ナカラシメタイト云フ答辯デアツタノデアリマス、其ノ他數多ノ質問ガアリマシタガ、是ハ略シテ置キマス

次ニ討論ニ入りマシテ、民政黨ノ山田君ヨリ修正案ヲ提出サレタノデアリマス、是ト同時ニ又附帶決議ヲ申出デラレタノデアリマスガ、茲ニ修正セラレマシタ所ノ修正案ト附帶決議ヲ朗讀致シマス

第七條第四項トシテ左ノ一項ヲ加フ

肥料業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ

其ノ職ヲ退キタル後五年間日本肥料株式

會社ノ役員ト爲ルコトヲ得ズ但シ主務大臣ニ於テ特に必要アリト認ヌタルトキハ

此ノ限ニ在ラズ

肥料業ヲ監督スル官廳ノ官吏タリシ者ハ

ノ殆ド慣例トモ言ツテ、宜イ位デアリマスガ、

一昨々年アタリカラ、此ノ條項ヲ法律ヲ以テ入レルコトニシテアリマス、其ノ例ニ倣スルヒマシテ、此ノ修正案ガ出タ譯ニアリマス、スル他ノ法令及ビ諸施設ノ運用實施ニ依ツテ、之ヲ行ツテ參リタイト云フ答辯デアツ

一 政府ハ速ニ肥料ノ國家管理ヲ斷行ス

二 政府ハ主要農產物ノ生産ニ對シ他ノ總テノ物資ニ優先シテ各種肥料ノ供給ヲ確保スベシ

三 政府ハ中央地方ヲ通ジ各種肥料配給機構ヲ整備シ敏速且圓滑ナル配給ニ遺憾ナキヲ期スベシ

四 政府ハ有機質肥料ノ供給及價格ノ適正ニ付更ニ徹底ヲ期スベシ

五 政府ハ速ニ飼料ノ配給ヲ圓滑ニシ家畜ノ増產ヲ圖リ自給肥料ヲ獎勵スベシ

議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(小山松壽君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一及び第二ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

次ニ附帶決議ヲ朗讀致シマス

附帶決議

日本肥料株式會社法案

第一讀會(確定議)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、昭和十五年度一般會計セス、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)日程第一及び第二ハ便宜上一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

次ニ附帶決議ヲ朗讀致シマス

日本肥料株式會社法案

第一讀會(確定議)

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交付  
スル爲公債發行ニ關スル法律案  
第一條 支那事變ニ關スル一時賜金トシ  
テ交付スル爲政府ハ昭和十五年度分ト  
シテ額面一億六千四百二十萬圓ヲ限り  
公債ヲ發行スルコトヲ得  
第二條 前條ノ規定ニ依リ發行スル公債  
ハ之ヲ登錄國債トス  
前項ノ公債ニ對シテハ證券ヲ發行シ本  
券ヲ記名式トシ附屬利札ヲ無記名式ト  
第三條 第一條ノ規定ニ依リ發行スル公  
債ハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ於テ  
買入ル場合ヲ除クノ外之ヲ讓渡シ又  
ハ擔保ニ供スルコトヲ得ズ

## 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員木村正義君登壇)

○政府委員(木村正義君) 只今議題トナリ  
マシタ昭和十五年度一般會計歲出ノ財源ニ  
充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案外一  
件ニ付キマシテ、其ノ提案ノ理由ヲ説明致  
シマス

先づ昭和十五年度一般會計歲出ノ財源ニ  
充ツル爲公債追加發行ニ關スル法律案ニ付  
說明致シマス、昭和十五年度歲出總豫算  
及ビ同年度歲入歲出總豫算ノ追加第一號ニ  
伴フ一般會計歲入不足ノ補填ニ付キマシテ  
ハ、之ニ關スル法律案ヲ本期議會に提出シ  
テアリマスガ、今回別途提出致シマシタ同  
年度歲入歲出總豫算追加第一號ニ計上セル  
經費ノ所要財源總額一億千六百六十餘万圓  
ヨリ、普通歲入及ビ前年度剩餘金ヲ以テ充  
當スペキ分三千八百三十餘万圓ト、道路公  
債法ニ依ル公債金ヲ以テ充當スペキ分六十  
餘万圓トヲ差引キタル殘額一億七千七百七  
十万餘圓ニ付キマシテハ、今日ノ場合之ヲ  
公債ニ依ルノ外アリマセヌノデ、本法律案  
ヲ提出致シタ次第アリマス

次ニ支那事變ニ關スル一時賜金トシテ交  
付スル爲公債發行ニ關スル法律案提出ノ理  
由ヲ説明致シマス、今回ノ支那事變ニ關シ  
シテ實行セラルコトトナリマシタル所、是  
功勞アリタル陸海軍軍人其ノ他ニ對スル行  
賞ハ、昭和十五年度以降緩急ノ順序ヲ考慮  
等功績アル者ニ對シテハ、満洲事變其ノ他ノ  
戰役事變ノ例ニ準ジ、一時賜金ヲ賜與セラ  
ルルコトト考ヘラレマスルガ、此ノ賜金ハ  
公債證書ヲ以テ交付スルコトト致シマスル  
爲、昭和十五年度分トシテ總額一億六千四  
百二十萬圓ダケ借債ノ權能ヲ得ル必要ガア  
リマス、尙ほ本公債ハ其ノ性質ニ顧ミ、受  
賞者ヲシテ永ク保有セシムル爲、之ヲ登錄  
國債トシ、之ニ對シ特別ナル證券ヲ發行ス  
ルコトトシ、且ツ我國現下ノ財政經濟事情  
ニ鑑ミ之ヲ政府ニ於テ買上ゲル場合ノ外、  
讓渡又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ザルコトト  
致シタイト存シマシテ、茲ニ本法律案ヲ提  
出致シマシタ次第アリマス、何卒御審議  
ノ上速ニ協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シ  
マス(拍手)

○議長(小山松壽君) 各案ノ審査ヲ付託ス

ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○服部崎市君 日程第一及び第二ノ兩案ハ  
一括シテ政府提出、昭和十五年度一般會計  
歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法  
律案外五件委員ニ併セ付託セラレンコトヲ  
望ミマス

○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第  
三、外國爲替管理法中改正法律案、第一讀  
會ヲ開キマス

木村大藏政務次官

第三、外國爲替管理法中改正法律案  
(政府提出、貴族院送付) 第一讀會

外國爲替管理法中改正法律案

外國爲替管理法中左ノ通改正ス

第一條第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タ

ル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄漬若ハ毀傷

## 附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(政府委員木村正義君登壇)

○政府委員(木村正義君) 只今議題トナリ  
マシタ外國爲替管理法中改正法律案ニ付テ  
提出ノ理由ヲ説明致シマス、近時海外ニ於  
テ本邦銀行券ノ相場ガ下落致シマシタ結果  
果、輸出貨物代金ノ決済又ハ貿易外受取勘  
定ノ本邦向送金等ニ際シマシテ、本邦銀行  
券ヲ送付又ハ攜帶輸入スルモノガ増加シ、  
本邦外貨資金ノ獲得保全上憂慮スベキ事態  
ヲ生ジマシタノデ、其ノ抑制ヲ圖ル爲、外  
國爲替管理法ニ基ク大藏省令ニ依リ、昭和  
十四年七月一日以降、本邦銀行券ノ輸入ヲ  
許可事項ト致シタノデアリマスガ、其ノ法  
的根據ニ付疑義ヲ挾ム向キガアリマスノデ、  
此ノ際外國爲替管理法上ノ根據ヲ明瞭ニ致  
シマスト共ニ、通貨ニ關スル爲替管理法規  
ノ整備ヲ期スル爲、本法律案ヲ提出致シマ  
シタ次第アリマス、何卒御審議ノ上速ニ  
協賛ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍  
手)

○議長(小山松壽君) 本案ノ審査ヲ付託ス

ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諸リ致シマス

○議長(小山松壽君) 本案ハ政府提出、昭和十五  
年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發  
行ニ關スル法律案外五件委員ニ併セ付託セ  
ラレンコトヲ望ミマス○議長(小山松壽君) 服部君ノ動議ニ御異  
議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第  
四條 土地區劃整理施行ノ爲必要アル  
トキハ換地豫定地ヲ指定シ相當ノ期間  
ヲ定メテ土地區劃整理施行地區内ニ存

○議長(小山松壽君) 御異議ナシト認メマ  
ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第  
四及第五ハ、便宜上一括議題ト爲スニ御  
異議アリマセヌカ  
〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ〕

ス、日程第四、神宮關係特別都市計畫法案、  
日程第五、都市計畫法中改正法律案、右兩

案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——兒玉

内務大臣

案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——兒玉

神宮關係特別都市計畫法案

第四 神宮關係特別都市計畫法案(政  
府提出、貴族院送付) 第一讀會第五 都市計畫法中改正法律案(政府  
提出、貴族院送付) 第一讀會第六 都市計畫事業ニシテ主務大臣ノ指定ス  
ルモノニ之ヲ適用ス前項ニ規定スル都市計畫事業ハ行政官  
廳之ヲ執行ス第一條 前條ニ規定スル都市計畫事業ノ  
執行ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ  
依リ關係公共團體ヲシテ其ノ一部ヲ負  
擔セシムルコトヲ得前項ノ規定ニ依ル負擔ニ係ル費用ハ他  
ノ法令ノ適用ニ付テハ都市計畫法第六條  
第一項ノ規定ニ依リ負擔スル費用トス第三條 土地區劃整理施行スル場合ニ  
於テハ設計及換地處分ニ關スル事項並ニ第四條第一項及第五條第一項ノ規定  
ニ依ル補償金額ハ土地區劃整理委員會  
ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ム土地區劃整理委員會ニ關スル規程ハ勅  
令ヲ以テ之ヲ定ム第四條 土地區劃整理施行ノ爲必要アル  
トキハ換地豫定地ヲ指定シ相當ノ期間  
ヲ定メテ土地區劃整理施行地區内ニ存

官報號外 昭和十五年三月二十日 衆議院議事速記錄第一十九號

昭和十五年三月二十日 外國爲替管理法中改正法律案第一讀會 六九七

